

## 「アド・ミュージアム東京」から

### 【展示部門】

#### 「コピー07 TCC広告賞展」(5月22日～6月9日)

ADMTでは毎年、TCC広告賞展を開催しています。今年  
は特に、賞本来の目的である広告コピーに焦点をあて、さまざ  
まな新しい試みを行いました。第一会場では、受賞作品の廣  
告コピーのみを抜き出して展示、第二会場では、各広告作品  
の現物を見ることができるよう会場をレイアウトしました。ま  
た、第一会場内に設けられた特設ブースでは、コピーライター  
が毎日交代で実際のコピーワークをする行動展示が行われ、来  
館者の注目を集めました。さらに5月31日にはトークイベントが  
開催され、CMプランナーの藪内道彦氏の司会により、安藤隆  
氏、岩崎俊一氏、玉山貴康氏、三井明子氏らが、広告コピーに  
かける情熱や最近の動向などについて熱心に語り合いました。



5月31日に行われたトークイベントの様相

#### 「アドフェスト2007展」(6月12日～7月7日)

1998年、タイのチェンマイで産声を上げた「アドフェスト」は、  
今年で10周年を迎え、目覚ましい経済発展を続けるアジアを  
代表する広告祭として世界的にも注目を集めています。

本年3月、タイのパタヤで開催された第10回大会では、従来  
の7部門に新たに360°(総合キャンペーン)、ラジオ、コンテ  
ィュラス(革新的アイデア)の3部門が加わり合計10部門となりま  
した。



#### 「第60回 広告電通賞展」(7月10日～7月28日)

わが国最大の総合広告賞である「広告電通賞」は、優れた廣  
告活動を行った広告主を顕彰する広告賞として昭和22年12  
月に創設され、今年で60回を迎えました。あらゆる広告媒体  
を網羅した日本の広告界を代表する唯一の総合広告賞であり、  
広告電通賞の歴史は日本のクリエイティブの歴史ともいわれて  
います。今年も、社会的なテーマを反映して、「人に対する優  
しきや励まし」を追求した質の高い作品がそろい、時代ととも  
に生きる広告の姿を映し出していました。



特別企画

「昭和の広告展 [ I ] ~ モダンと激動の四半世紀 ~」を開催中  
(8月1日~9月24日)

毎年夏に開催されるADMTの特別企画展は、今年で5回目を迎えました。

今回は、「昭和の広告展 [ I ] ~ モダンと激動の四半世紀 ~」と銘打ち、8月1日より9月24日まで開催しています。本展は、江戸、明治、大正と3回にわたって開催してきた、特別企画展・歴史シリーズの第4弾です。

60年余にわたる激動の昭和を、戦前、戦後の2期に分け、今回はそのパートIとして主に戦前を中心に取り上げました。

大衆消費社会の出現によってモダンで華やかな広告表現が駆使された昭和初期から、戦時体制下における“広告 冬の時代”を経て、戦後復興に向けて歩み始めるまでの激動の時代の中で、広告は大衆に何を伝えてきたのかを主にミュージアムの収蔵広告作品から構成・紹介しています。

企画展会場は三部から構成され、第一部では「モダニズムと激動の時代を生きた広告」をテーマに、光と影の混在する振幅の大きい昭和前期の広告の姿を、大衆消費という視点から紹介

しています。第二部の「時代と共鳴した広告表現」では、アール・デコやバウハウスなどの新興デザイン運動や、商業美術運動の広がりによって変化した広告表現を取り上げました。第三部では、広告メディアとしての新聞・雑誌の変遷、そして戦後の商業放送の開始を

紹介します。「広告研究雑誌・図書コーナー」を設け、研究室から広告現場へと広がった昭和初期の広告研究の姿を文献等によって紹介しています。

また会場には、当時の街並みを写した映像や懐かしい流行歌が流れ、昭和初期の雰囲気を醸し出しています。



映像と音楽が昭和前期の雰囲気を盛り上げている展示会場。



新聞・雑誌メディアの変遷や商業放送の始まりを紹介。



(左) 「SEE KOBE」ポスター  
兵庫県観光協会 / 昭和初期  
モダンなデザインと英語のキャッチフレーズが印象的なポスター。昭和5年頃から、外貨獲得のために外国人観光客を日本に誘致する活動が活発になり、観光ポスターが数多く制作された。

(右) 新協劇団「春香伝」ポスター / 築地小劇場 / 河野鷹思デザイン / 昭和13 (1938) 年  
村山知義が演出し、河野鷹思が舞台装置を手がけた韓国の古典「春香伝」の公演ポスター。当時の映画や演劇ポスターには、欧米の先鋭的なデザインの影響が色濃く見られる。築地小劇場は、大正13 (1924) 年に日本で初めての新劇の常設劇場として活動を開始した。

## [図書館部門]

### 「昭和の広告展 [ I ]」関連図書紹介

アド・ミュージアム東京の企画展開催中、展示作品関連の資料の問合せを毎年多く受けるため、所蔵資料の中から関連資料をまとめました。全て館内に閲覧できます。また紹介リストも作成し、期間中、図書館内と展示ホールに置いてありますのでご活用下さい。

掲載	書名	著者・编者	発行社	発行年
1	新聞広告美術大系 11～13巻 昭和戦前期編(昭和元年～10年)	羽島知之 編	大空社	2007
2	北原照久の20世紀広告博覧会	北原照久	グラフィック社	2007
3	写真でよむ昭和モダンの風景 1935年-1940年	津金澤聰廣	柏書房	2006
4	東宝／映画ポスターギャラリー	東宝 編	東宝	1995
5	昭和レトロ商品博物館	串間努	河出書房新社	2001
6	東宝行進曲 私の撮影所宣伝部50年	斎藤忠夫	平凡社	1987
7	明治・大正・昭和 世相と事件雑学時点	毎日新聞社 編	毎日新聞社	1977
8	創意工夫一江崎グリコ70年史	江崎グリコ 編	江崎グリコ	1992
9	やってみなはれ サントリーの70年	サン・アド 編	サントリー	1969
10	味の素沿革史	味の素沿革史編纂会 編	味の素	1951
11	昭和広告証言史	渋谷重光	宣伝会議	1978
12	昭和広告60年史	山川浩二	講談社	1987
13	日本新聞広告史	電通創立四十周年記念	電通	1940
14	山名文夫作品集(アイデア別冊)	山名文夫	誠文堂新光社	1981
15	村山知義グラフィックの仕事	編集刊行委員会 編	本の泉社	2001
16	アール・デコのパッケージ	木村勝	六耀社	1986
17	聞き書きデザイン史	アールシーヴ社	六耀社	2001
18	原弘デザインの世紀	原弘	平凡社	2005
19	メディア史を学ぶ人のために	有山輝雄、竹山昭子 編	世界思想社	2004
20	ニュース・エージェンシー 同盟通信社の興亡	里見脩	中央公論社	2000
21	戦争と女性雑誌 1931年～1945年	近代女性文化史研究会	ドメス出版	2001
22	『キング』の時代 国民大衆雑誌の公共性	佐藤卓巳	岩波書店	2002
23	ラジオの時代 ラジオは茶の間の主役だった	竹山昭子	世界思想社	2002
24	近代日本の身装文化 「身体と装い」の文化変容	高橋晴子	三元社	2005
25	モダニズム出版社の光芒 プラトン社の一九二〇年代	小野高裕、西村美香、明尾圭三	淡交社	2000
26	名取洋之助と日本工房 [1931-45]	白山眞理、堀宜雄	岩波書店	2006
27	ビギン・ザ・ビギン-日本ショウビジネス楽屋口-	和田誠	文藝春秋	1982
28	昭和の企業	大宅壮一、半藤一利	筑摩書房	2000
29	私説放送史 「巨大メディア」の礎を築いた人と情熱	大山勝美	講談社	2007
30	にっぽん台所文化史	小菅桂子	雄山閣	1991

### 「アド・ミュージアム東京」平成19年9月～11月の休館日

9月26日は、館内展示の入れ替えのため、臨時休館します。

9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1							1							1
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
30																				

●は休館日